令和6年川越市入込観光客数の概要

1	令和6年川越市入込観光客数	7,358,000人	対前年比 102.32% (令和5年 7,191,000人)
〔	国内観光客数	6,659,000人	対前年比 101.26% (令和5年 6,576,000人)
	外国人観光客数(推計)	699,000人	対前年比 113.66% (令和5年 615,000人)

2 集計期間

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

3 考察・結果

(1) 国内観光客数

①GPS データによる主要4エリアの来訪人数

令和6年 GPS データによる主要4エリアの来訪人数は、3,310,141人、令和5年は3,380,813人(前年比97.91%)

令和6年は、冬季(1月・2月)・5月・夏季(7月・8月)・秋季(10月・11月)に減少した。

観光客数の減少について、主に以下の理由が考えられる。

○天候による影響

前年に比べ、冬季・5月・夏季・秋季における天候不順の日が多かった。※1

※1 冬季・5月・夏季・秋季の天候は以下の通り。(日本気象協会)

令和6年(冬季・5月・夏季・秋季)晴・曇日数128日(前年-34日)、雨日数86日(前年+34日)

○混雑予想の情報発信による、来訪時期の分散化

5月の観光客は、184,402人(前年比92.38%)で例年観光客の来訪が多い5月の大型連休時期に混雑予想を情報発信した結果、来訪時期の分散化が一部進んだと考えられる。

②その他主要観光地点の来訪人数

上記①と同様の理由から、年間を通しての来訪者数は微減となった。

令和6年その他主要観光地点の来訪人数は、2,350,605人、令和5年2,389,775人(前年比98.36%)

③大型行祭事イベントの来訪人数

小江戸川越春まつり(前年比181.97%)、川越百万灯夏まつり(前年比116.79%)、川越まつり(前年比131.55%)において前年を上回る来訪人数があり、令和6年の大型行祭事イベントの来訪人数は増加となった。

令和6年大型行祭事イベントの来訪人数は、999,233人、令和5年は、805,501人(前年比124.05%)

①～③の合計により、令和6年の国内観光客数は、6,659,000人 令和5年は6,576,000人(前年比101.26%)となった。

(2) 外国人観光客数

JNTO(日本政府観光局)による訪日外国人旅行者数(推計値)は、36,869,900人(対前年比147.1%)となった。本市の外国人観光客数は699,000人で、前年比113.66%であったため、国全体の伸び率と比較して、鈍化傾向であった。

その要因として、コロナ禍が明け、訪日外国人旅行者の行動範囲が大都市圏中心から全国へより拡大・

分散したことが推測される。

※宿泊旅行統計調査(観光庁発表)において、令和6年11月の外国人延べ宿泊者数の前年同月比は、全国平均+22.9%となった。東京都は+22.4%、埼玉県が+37.0%、神奈川県が+23.7%、千葉県が+13.8%、大阪府が+14.3%、京都府が+9.3%であった一方、青森県、石川県、鳥取県、島根県、香川県、愛媛県、宮崎県、沖縄県が50%以上であった。埼玉県は全国平均を上回っているものの、大都市圏域より地方部の宿泊者数の伸びがより顕著であったことから、地方部への分散化が進んだものと思われる。

(3) 合計(令和6年川越市入込観光客数)

新型コロナウイルス感染症収束に伴う旅行による移動が2年前、昨年ほどの差異がなくなったこと、及び、本市の受け入れ環境等も大きな変化がなかったことから、対前年比102.32%に止まり、変動幅が少なかったと考えられる。